

令和2年度第1回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和2年9月30日（水）13：30～15：30
と ころ：平戸市役所 3階会議室ABC

開催日時	令和2年9月30日(水) 13:30~15:30
開催場所	平戸市役所 3階会議室ABC
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木望、井上翔一郎、白石くみ子、田上和利、辻秀敏、 長崎屋容子、林田裕之、福田章、町田和正、松山芳弘、 村上則夫、山中兵恵、山邊幸一、山本洋一(14名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	岡田真(1名)
事務局 (財務部企画財政課)	村田部長、田中課長、藤山班長、浦川主任主事
事業担当課長	観光課：藤田課長、商工物産課：森班長、農林課：度嶋課長 水産課：藤澤課長
次第	(事務局)
1 開会	
2 委嘱状交付	委員を代表して赤木委員へ委嘱状交付
3 委員紹介	事務局から委員紹介
4 副市長 あいさつ	町田副市長
5 推進員会会長 及び副会長の選 任について	委員の互選により、会長に村上委員、副会長に町田委員を選任。
6 議題 (1) 平戸市総合戦 略及び人口動態 等について 委員	(事務局説明) ●質疑・意見等 観光サービス業に就いていただく機会が減っている。コロナウイルス 感染症が終息すれば、平戸市の観光業も賑わう時期も来ると思うが、 宿泊業が根付かないとなかなかお金が落ちない。大型ホテルから、

	<p>様々な形態の宿泊に変わってきているので、そういったものが増えて平戸の観光産業が大きく伸びてくると良いと思う。我々も努力して、就労環境を整えていければと思う。</p>
委員	<p>資料を見ると、多くの若者が流出している事実があり、かなり厳しいと改めて感じた。一方で出生率は高く、都会に比べると子供をもうけようという環境ではあると思うので、そこをこの委員会を通じて強みに転じられればと思う。</p>
会長	<p>まちづくりというのは、良いところはさらに良く、悪いところはプラスに転換することだと思う。</p>
委員	<p>出生率が高くて、人口が維持できるような数字になっているが、就学や就職のタイミングで出て行ってしまふことが多い。他の自治体の事例を見聞きしてきたが、相当な手当をしないと難しいという気がしている。数字を見ると、これは相当厳しいという感じがする。</p>
会長	<p>これまで考えていないような、発想していないようなことを考えていく必要がある。</p>
委員	<p>県内の宿泊飲食業は、7月の新規求人が昨年と比較すると7割程度減少している。すべての産業で減少しているが、宿泊飲食業の落ち込みがひどい。GoToキャンペーンなどにより、今後徐々に回復するかもしれないが、雇用情勢としては非常に厳しい中にある。</p>
委員	<p>コロナウイルスの影響により、取れた魚が売れないし、売れても安い状況で大変厳しい。現在はアゴ漁の時期だが、箱 2,300 円まで落ちている。コロナウイルスの影響が終息してもらわないと何も売れない。また、水産の担い手も少なく頭を痛めている。さらに、今年の法改正により、沖合での洋上風力等が許可されるようになり、第一次産業を守ってきた私たちも頭を痛めている。第一次産業が力を持たないと、</p>

<p>(2) 平戸市総合戦略に係る令和元年度事業の実施状況等について</p>	<p>平戸市はダメになるのではないかと思う。</p> <p>【基本目標1 雇用の促進】 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p>
<p>会 長</p>	<p>事務局説明の中で、地元高校生の就業率が目標達成とのことだったが、地元高校での取組みなどは何かあるのか。また、それを含めて委員から何か意見は無いか。</p>
<p>委 員</p>	<p>市内中学校の卒業生が250人前後である、市内高校の1学年のクラスは8クラスであり、1クラス40人とする市内中学生だけでは足りない。さらに、平戸市内の中学校卒業生の半数が市外高校に進学している。高校を卒業した市内就職者のほとんどは北松農業高校の生徒であるが、こここのところ、就職希望者の7～8割は県内に残っている。平戸市内に働く場所がたくさんあれば、まだ平戸市内に残ると思う。松浦や佐々に大きな企業があるので、そちらに流れているようである。猶興館高校は進学が多いが、市外に出ても地元に戻ってくるような指導をしている。北松農業高校も7～8割は県内就職であり、今後も地元に残るような指導をしていく。</p>
<p>会 長</p>	<p>卒業生が県外に行くならば、観光大使に任命して名刺を配ってもらったらどうかというアイデアを出したことがある。</p>
<p>委 員</p>	<p>平戸市には仕事が無いという話と、人がいないという話の相反することをよく聞くが、実態はどうか。</p>
<p>委 員</p>	<p>仕事は、やろうと思えば市内でもあると思うが、農業や漁業はきついし朝も早いのでなかなか難しい。ただ、平戸市内でのアスパラガスの就農についてテレビ放映も県外でなされ反響があったようであるし、</p>

	<p>やり方によってはできると思うが公務員のように就業時間が決まっているわけではない。そこを理解いただいて頑張れば、生活できる収入は得られると思う。</p>
会 長	<p>後継者について、水産業のほうはどうか。</p>
委 員	<p>仕事はいくらでもあるが、昔のような魅力がないのではないかと思う。コロナウイルスの影響で、kg 1万円していた魚が半値になっており、このあたりを早く解決してもらいたい。何よりも漁業法改正の影響が心配で、洋上風力の影響により回遊する魚がどうなるのか、というところがある。</p>
委 員	<p>私たちの世代は、親から「1回は出てもいいけど最終的には家を継いで」と言われて、帰ってきている人も多い。</p>
委 員	<p>取引先の法人では、求人はほとんどなされていない。ハローワークの資料にもある通り、平戸市内での新規の採用は多くない。自分で「こういう仕事をやりたい」というものを持っている方がいいが、高校や大学を卒業してサラリーマンを希望すると、市内の企業での求人は無く、業種も限られてくるし、自分が希望する職種が見当たらないということになっている。自分に合った仕事を探すというのが現在の主流だと思うので、そうなると市内での職種は少ないし、市内の企業が毎年複数人の雇用をしている状況ではなく、年に1人取るか取らないかというところである。売り上げや収益の規模が縮小している中、求人を増やすというのは企業にとっては死活問題にもなりかねない。だが、社長たちが困ってらっしゃるのは、そういった中でも事業は継続していかなければいけないので、少しずつでも採用していかなければいけないというところである。市内での新卒の採用は非常に少ない。子どもたちに平戸市に帰ってきてもらいたいという保護者の方々はおられるが、そういった事情で帰ってこないというのが現実ではないかと思う。平戸市が魅力あるまちであることは間違いないので、どれだ</p>

	<p>け外向けにアピールして人を引っ張ってくるかに力点を置き、活性化につながると地元の人たちも帰ってくるのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>松浦市では、高校生のときに自分で進路を固めている人も多いという理由で、中学生にも同様の取組みを行っているので、平戸市でも同様に取り組んでみてはどうかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私の子どもが佐世保市にいるが、平戸市の税金で育ててもらったから、平戸でお金を使うように話をしている。自営で生活しているが、人手が足りないので、子どもには帰ってきて仕事を手伝ってもらいたいと思っている。だが、外の世界も見てみたいと思っているだろうから、一度は平戸市を出ていいので、外の知識を持ってきてそれが平戸に根付くと良いと思う。先ほど工業団地の説明がなされたが、まだ誘致企業が決まっていないと聞いている。将来、子どもが自分で会社を作って、大勢を雇用できるようになれば良いという話もしているが、平戸市は他地域と比べて手取りが少なく、お金を楽しく使えないので、魅力が無いと子どもから言われた。子どもはまだ働く年代ではなく、何をきっかけにそう考えたのかわからないが、ネットで調べたりして先を見据えているのではないかなと思う。平戸市に帰ってきてもらうための魅力を、何か一つでも持って取り組んでいければと思うし、市内で頑張ればお金だけではなく、人の恩や温かみを学ぶことができると思う。中学校の頃から平戸の人たちとの関わりや企業知ることには大事で、高校からの取組みでは遅いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど、平戸市には仕事が無いのか人がいないのかどちらなのか、という話がなされたが、私は両方だと思う。その中で、市も特に製造業を誘致しようということで体制を作って取り組んでいるのも知っているが、結果がどうなのかというのは私も聞いていない。そのような中で、市は市内の魅力ある職場を紹介する冊子も作っている。移住については、平戸市にはまだ呼び込む余地はあると思うが、これはPRのやり方だと思う。また、コロナウイルス感染症が長引けば、農林水産</p>

<p>(2) 平戸市総合戦略に係る令和元年度事業の実施状況等について</p> <p>委員</p>	<p>業や商工業への影響は都会と変わらないと思う。今日は、令和元年度の報告検証が主であろうが、令和2年度に策定した総合戦略の細かな部分を探っていくのも大事だと思う。大きなテーマは変えられないと思うが、27 ページに今後の方針が載っているが、関係機関とも協議がなされたうえで、コロナウイルスに打ち勝つ事業が総合戦略にも反映されたらと考える。</p> <p>【基本目標2 産業の振興】 (事務局説明)</p> <p>●事務局説明</p> <p>コロナウイルスの影響で、観光産業は非常に苦しい。コロナ後は地域間競争がより激しくなると思う。今まで観光地は、エージェントに頼って送客してもらった立場で拡大してきた。個人客の需要が増えると、地域間競争を踏まえながら、平戸に来てもらうための目的づくりをしっかりとやっていかないと競争に勝てない。平戸に対する観光の目的は様々だろうが、やはり食の部分は外せない。また、DMOについては、DMOという言葉から地域づくり法人という言葉が使われており、観光をキーワードとした地域づくりが非常に重要である。そこに住んでいる方々との連携や情報共有、コンテンツの磨き上げを行いながら、観光客のニーズがどこにあるのか、あるいはターゲットをどこに絞るのか、限られた予算の使い方などが問われている。しっかり組織改革をしながら、平戸のための観光づくりができていけばと考えている。平戸市から2時間圏内には、観光の競争相手が多い。今までの平戸のコンテンツとして、歴史・文化・自然・食が挙げられており、それぞれの地域特色がクローズアップされている。平戸ではこれ、と、いうのを挙げていくとそんなに多くない。多くないというのは、お金が落ちる仕組みができていないということである。様々なコンテンツを磨き上げることによって、お金が落ちる仕組みを作らないといけない。観光客がお金を払える受け地として、どういう仕組みづくりをし</p>
--	--

	ていけばいいのか今悩んでいるところであるし、協議をしながら満足度を高めないといけないと考えている。
会 長	仕組み、仕掛けを考える余地はあると思う。
委 員	平戸の魅力はなに？と聞かれたときに、一つに絞れないくらいたくさんあるし、食も平戸に来る動機になる。個人的には、それは知り合いに伝えているのだが、それが大きな動きになって平戸を知ってくれる人を増やしていくように手掛けていきたい。
委 員	平戸にお金を落としてもらえば、マナーや道路環境整備、トイレの清潔さなど施設がきれいであることが必要ではないかと思う。
委 員	私は県内学校を卒業して就職しようとしたとき、地元に残る気持ちは全くなかった。それは、都会への憧れがあったからであり、今の若者にもそのような方がたくさんいると思う。今年3月に卒業した県北管内の高校生の状況を見ると、219人の卒業生のうち管内に残ったのは30人、13.7%である。県外に出た方は114人、52.1%である。都会への憧れや、地元で生活する魅力、仕事をする上では給料面だけではなく、働きやすい、休みがとりやすいという環境面を重視する高校生が多い。住みやすいまちづくりに加えて、魅力ある職場づくりが今後続けていくことが大事だと考えている。
委 員	農業に対する施策は、市からかなり支援をいただいている。子牛の値段が少し下がっているが、昔と比較するとまだ高く、経営していける額である。だが、若い担い手から見ると高額だった時期と比較してしまい、魅力が無いという言い方をしている。
委 員	水産の建物が老朽化しており、補修するには漁協が体力が無く、なかなか直せないの国や市の補助に頼らざるを得ない。

副会長	<p>求人職種自体が少ないということがあり、希望どおりの就職をしようとしたとき、今までの経験上で言うと求人倍率が 1.2 倍以上ないと選択の余地が出てこない。先日メディアで、アスパラガスで 1,000 万プレーヤーというのが紹介され、100 件を超える問い合わせをいただいた。平戸市は農業に手厚く、生活費も面倒を見る場合もあるし、施設補助も最大 8 割ぐらいある。コロナウイルスの状況で仕事を失った人が多いため、問い合わせが多かったのではと思う。平戸のような田舎では高い給料は難しいかもしれないが、ある程度の生活はできるので、そのようなことを理解してもらうのが必要だと思う。また、中学校を卒業して高等学校に進学する段階で、5 割の生徒が市外に出るので、中学校時代から取り組む必要があると思う。工業団地は誘致に取り組んでいるが、いくつか可能性がある企業が出てきている。工業団地だけではなく、色々な空き施設も市内に出てきているので、ワーケーションスペースなどに活用して様々な職種を創り出していく必要性もあると思う。</p> <p>会議終了</p>
-----	---